編集後記

『現代医学』創刊は昭和 25 年（1950 年）11 月である。今年 73 年目にして第 70 巻を迎えることができた。編集委員を代表し，これまで執筆や編集に携わられた多くの方々，そして支援を惜しまなかった愛知県医師会に対し，あらためて敬意と感謝を表したい。

『現代医学』の歴史については，本号のオピニオンで山内委員も触れられているが，創刊号の編集委員は，名大生化学教授・堀田一雄（55 歳），名大第一内科教授・日比野進（42 歳），名市大第 2 外科教授・藤浪修一（43 歳），名大生化学助教授・八木國夫（31 歳）と藤田啓介（25歳），同予防医学助教授・岡田博（38 歳），同第一内科・小野三郎（27 歳），同病理学・飯島宗一（28 歳）である。出版に至った経緯として，堀田と岡田の構想から始まり，日比野らの協力を得たこと，途中で中部地区の医科大学にも声を掛けたが頓挫し，最終的には愛知県医師会が支援したと記述されている。そして，『現代医学』は“一地方雑誌の内容外観でなく全國雑誌として羞かしからぬ高級の雑誌で，而も一般開業医の方々に喜ばれるもの”を目指すと結ばれている。戦後復興の時代，名古屋の地に医学雑誌を発刊せんという気概と意地を感じる。編集委員に若い有為俊才を揃えたということ，8 人のうち 5 人が基礎医学者であることも注目される。

それから 73 年，医学は長足の発展を遂げた。多くの医学雑誌が出版されており，最近では Web サイトからの情報も氾濫している。私は令和元年（2019 年）に編集委員長に就任したが，まず愛知県医師会員のみを対象とした医学雑誌を出版する意義があるのか，あるとすればどこにあるか，自問自答することとなった。原稿執筆のモチベーションが低い，校正作業も滞る，従って出版が遅れるといった状況もあった。そこでオープンジャーナル（ネット上で誰でも無料で閲覧できる）とすること，編集・校正は出版社に委ねることを提案し，柵木愛知県医師会長をはじめ幹部らの快諾を得た。以後，『現代医学』アクセス数は順調に伸びているようだ。

『現代医学』の特徴は？と聞かれたならば，この地区での新進気鋭，第一線の医師らが執筆することだと答えたい。グローバル時代にローカルな話と笑われそうであるが，顔の見えるヒトが書くということは，情報の信頼性を高めることになるのではないか，書く方にとっても宣伝や紹介にもなるのではないかと考えている。さらには，県医師会という公的組織が管理するサイト上に，すべてが蓄積・保存されていくことも安心できる。今後とも専門性の高い医学情報をわかりやすく提供することを心がけていきたいので，積極的な投稿もお願いしたい。

「現代医学」誌編集委員会 委員長兼編集責任者
直江　知樹